令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　607

事務事業名称		第3プラント施設運営業務						
担当部署(R7年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1988(S63)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、大気汚染防止法、騒音規制法、下水道法・枚方市下水道条例、枚方市公害防止条例、水質汚濁防止法、大阪府生活環境の保全等に関する条例、ダイオキシン類対策特別処理法 等						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	適正な分別・収集からなる適正処理を実現し、計画的かつ安定的な施設の保全及び維持管理が行われている。						
	対象者(受益者)	家庭から生活ごみ等を排出する市民						
	現状・課題	ごみの適正処理及び安定性を確保できるよう、必要な施設保全や保守点検等を実施する必要がある。						
	事業の概要	ごみ処理に関する公害関係法、廃棄物関連法に定める基準を遵守し、第3プラントで一般ごみを適正に焼却処理し、発生する残渣物を適正に処理する。 (処理施設の概要) 名称:穂谷川清掃工場 所在地:枚方市田口5丁目1番1号 第3プラント(焼却処理能力:200t/日、昭和63年3月竣工)、排水処理施設(処理能力:402㎥/日、昭和56年3月竣工)、動物焼却炉(焼却処理能力:50kg/時、昭和57年3月竣工)						
	年間の主な事務	・第3プラント内のデータ処理設備、電気設備、非常用発電設備等各種機器の保守点検 ・第3プラントの定期補修工事、設備等(保守点検委託を行っている機器以外)の点検・修理 ・排水処理設備、井戸設備の定期補修工事、点検・修理 ・公害関係の分析調査及びごみ質分析						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	4.65人	—	—	—
再任用	1.90人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	45,871	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		45,871	—	—	—		
	物件費計		688,264	—	—	—	701,221	98.2%
歳出計			734,135	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		14,100	—	—	—	14,100	
	その他		283,024	—	—	—	346,020	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			297,124	—	—	—	360,120	
一般財源(物件費充当分のみ)			391,140	—	—	—	341,101	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 第3プラントの施設保全や保守点検等を行う。	日	223 日	ー 日	ー 日	ー 日
② 第3プラントにより、市内域の一般ごみを焼却する。	t	33,544 t	ー t	ー t	ー t
③ 焼却灰・飛灰及び資源化した後に発生する不燃残渣を処理する。	t	3,528 t	ー t	ー t	ー t

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①			R6	R7	R8	R9	単位
	説明						
	指標	目標					
		実績					
		算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①			R6	R7	R8	R9	単位
	説明						
	指標	目標					
		実績					
		算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

ごみ処理に関する公害関係法、廃棄物関連法に定める基準を遵守しながら、第3プラントで一般ごみを適正に焼却処理し、発生する残渣物を適正に処理する。
枚方京田辺環境施設組合の運転稼働まで、第3プラントの安定稼働に務める。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	廃棄物処理計画に基づいてごみを適正に処理するため、公害防止を図りながら施設の維持管理及び運転管理を行った。その結果、計画どおりごみ焼却を実施するとともに排ガス等の法令基準値・自主基準値とも全て達成した。また、焼却廃熱を利用した発電を行い、余剰電力を電力会社に売電することで第3プラント焼却設備の効率的な運転に努めた。 ごみの焼却量は概ね想定どうりに推移しているが、労務単価の上昇や物価高騰の影響による委託料が増加し、事業コストは上昇している。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	穂谷川清掃工場第3プラントは、枚方京田辺環境施設組合が整備を進めている可燃ごみ広域処理施設の稼働に伴い、令和7年度末をもって休止となる。これに伴い、年度内に焼却炉の運転を停止するが、それまでの間は市民生活に影響が生じないよう、第3プラント焼却設備の安定稼働に努める。 また、排水処理、井戸設備の維持管理など令和8年4月以降も継続が必要な事務について整理するともに、第3プラントの建屋(工場棟)の暫定的な利活用の方法等について検討を進める。	R7年度方向性	見直し

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	見直し	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　608

事務事業名称		穂谷川資源循環センター施設管理業務						
担当部署(R7年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2013(H25)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市庁舎管理規則						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	穂谷川資源循環センターを利用する市民が、施設を安心して安全に利用できている状態。						
	対象者(受益者)	申請手続き及び持込ごみ等で施設を利用する市民。						
	現状・課題	穂谷川資源循環センターを利用する市民が、安全に利用できるよう施設保全や保守点検を実施する必要がある。						
	事業の概要	穂谷川資源循環センター(焼却施設を除く)の維持管理を行うため、施設保全及び保守点検等を実施する。 (施設の概要) 名称:穂谷川資源循環センター(焼却施設を除く) 所在地:枚方市田口5丁目1番1号 敷地面積:38,941㎡ 主な施設:管理棟(執務室及び作業員控室、昭和49年3月竣工、鉄筋コンクリート造3階建、建物面積2,382㎡)、公用車車庫(昭和49年12月竣工、鉄骨造耐火構造平屋建、建物面積1,208㎡)、旧管理棟(昭和40年3月竣工、鉄骨造2階建、敷地面積232㎡、平成25年3月に改築し、同年4月から、リサイクル施設「ひらかた夢工房」として使用)等。						
	年間の主な事務	穂谷川資源循環センター敷地全体の環境美化及び、管理棟の日常点検(警備・清掃・緑地帯管理等)、法定点検(火災報知器点検・受水槽高架水槽点検・空気環境測定)、敷地内の建物の点検や部分補修、動物焼却炉の定期補修等を計画的に行う。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	4.30人	—	—	—
再任用	0.85人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	37,586	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		37,586	—	—	—		
	物件費計		47,813	—	—	—	58,219	82.1%
歳出計			85,399	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		18,000	—	—	—	23,400	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			18,000	—	—	—	23,400	
一般財源(物件費充当分のみ)			29,813	—	—	—	34,819	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 穂谷川資源循環センター(焼却施設を除く)の施設保全及び保守点検等を行う(執行率)	%	100 %	ー %	ー %	ー %
② 動物焼却炉により、動物の遺骸を焼却する。	匹	2,006 匹	ー 匹	ー 匹	ー 匹

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①			R6	R7	R8	R9	単位
	説明						
	指標	目標					
		実績					
		算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①			R6	R7	R8	R9	単位
	説明						
	指標	目標					
		実績					
		算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	穂谷川清掃工場(焼却施設を除く)の施設保全及び保守点検、敷地管理等を計画どおり実施した。事業コストについては、管理棟(昭和49年建設)などの施設の老朽化により、修繕費用が増加傾向にある。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	穂谷川清掃工場(焼却施設を除く)の施設保全及び保守点検、敷地管理等を計画どおり実施していく。また、労務単価の上昇や物価高騰の影響により施設管理に係る委託料は今後増大していくことが予測されるため、令和8年度以降に向けてより効率的・効果的な委託となるよう見直しを検討する。	R7年度方向性	見直し

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	見直し	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　624

事務事業名称		学校給食牛乳パックリサイクル事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画	基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			細区分	任意的区分	
		施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち			性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　R4年度(2022年度)　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:	—	
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	穂谷川清掃工場へ搬入される学校給食牛乳パックについて、焼却ではなく適正な処理(破砕洗浄)を行い資源化(再生)することで、焼却ごみの削減・リサイクルの意義の見える化を行い全児童・生徒やその保護者にも知ってもらうなど環境教育の充実化を図り、ごみの減量化や地球環境問題の取組(カーボンニュートラル)につなげる。						
	対象者(受益者)	小・中学校の学校給食で牛乳を飲む全児童・生徒/小・中学校の学校給食で牛乳を飲む全児童・生徒の保護者						
	現状・課題	焼却処理であったものを資源物としていくが、資源化できる物として適正に処理(破砕洗浄)する必要がある。/リサイクルの必要性を周知していくための手段(見える化)が必要。						
	事業の概要	令和4年4月から学校給食牛乳パックの処理が、自治体で義務化されたことに伴い、市立小中学校から給食牛乳パックを回収し、破砕・洗浄したうえで、市と製紙会社と運搬事業者との3者による公民連携を活用し、段ボールなどにリサイクルを行う。 また、給食牛乳パックを破砕・洗浄する動画を作成し、動画を市教育委員会に提供し、環境教育で活用することで、ごみ削減の意識の啓発を図るとともに、カーボンニュートラルの推進を図る。						
	年間の主な事務	・学校給食牛乳パック破砕・洗浄後、公民連携(協定)によるリサイクル						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
人員体制	正職員	0.85人	—	—	—
	再任用	0.45人	—	—	—
	任期付職員	0.00人	—	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
	特別職非常勤	0.00人	—	—	—
	附属機関委員	0.00人	—	—	—

	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
決算額	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	8,932	—	—	—		
			会計年度任用職員	0	—	—	—		
			特別職非常勤	0	—	—	—		
			附属機関委員	0	—	—	—		
		人件費計		8,932	—	—	—		
		物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
	歳出計			8,932	—	—	—		
	歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
		府支出金		0	—	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
		市債		0	—	—	—	0	
		その他		0	—	—	—	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
	一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 受け入れた給食牛乳パックを適正に処理した割合（適正に処理できた給食牛乳パック量／受け入れた給食牛乳パック量×100）	%	100 %	ー %	ー %	ー %

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明：適正処理し資源化した牛乳パックを公民連携(協定)により運搬する。

指標：適正処理し資源化した牛乳パックの搬出量

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	45	45	45	45	t
実績	46	―	―	―	t

算出方法：市内小中学校の搬出量

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明：可燃ごみとして焼却処理される牛乳パックが資源化される。

指標：適正処理し資源化した牛乳パックの資源化率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	102	―	―	―	%

算出方法：【資源化量／受入量×100】

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市立小中学校から排出される給食牛乳パックを回収し、再資源化を行うことで焼却ごみの削減を図る。また、これらの仕組みを環境教育で効果的に活用することで、次代を担う子どもたちの環境問題に対する意識を高め、循環型社会の形成やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みの充実につなげていく。。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	市立小中学校から給食牛乳パックを回収し、破砕・洗浄したうえで、市と製紙会社と運搬事業者との3者による公民連携を活用し段ボールなどに再資源化を図った。 令和6年度は、市立小中学校から受け入れた給食牛乳パック(46.49t)について、すべて再資源化を図れている。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	引き続き、公民連携を活用しながら、市立小中学校から受け入れた給食牛乳パックの再資源化に取り組む。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持	**現状維持**	―	―	―

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　625

事務事業名称		穂谷川資源循環センター資源循環業務						
担当部署(R7年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				性質	環境・衛生	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　R4年度(2022年度)　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	廃棄物清掃に関する法律						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:	—	
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	穂谷川清掃工場に搬入された空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品、リチウムイオン電池のリサイクルや、市民が直接持ち込まれた粗大ごみを可燃物・不燃物・資源物等に分別し、再資源化を図ることで、焼却ごみを減量し、循環型社会を推進する。						
	対象者(受益者)	穂谷川資源循環センターのごみ処理により、環境に影響を受ける市民						
	現状・課題	地球環境問題の影響により、今後についても資源化やごみの分別は重要であり、適切な分別及び資源化に努め、ごみの減量化を図る。						
	事業の概要	穂谷川清掃工場に搬入された空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品、リチウムイオン電池などのリサイクルを行う。また、市民が直接持ち込まれた粗大ごみを可燃物・不燃物・資源物等に分別し、再資源化を図る。						
	年間の主な事務	・市民の持込みごみの分別によるリユース・リサイクル ・空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品等のリサイクル(中間処理含む)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	8.20人	—	—	—
再任用	2.75人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	77,691	—	—	—		
		会計年度任用職員	211	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		77,902	—	—	—		
	物件費計		46,261	—	—	—	57,087	81.0%
歳出計			124,163	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		198	—	—	—	266	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			198	—	—	—	266	
一般財源(物件費充当分のみ)			46,063	—	—	—	56,821	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 持込みされた市民持込ごみを可燃物、不燃物、資源物に適正に分別してごみ量を減らす。	t	26.1 t	ー t	ー t	ー t
② 空き缶・びん・ガラス類及び小型家電、水銀廃製品等について受け入れる。	t	2,737.2 t	ー t	ー t	ー t

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	
指標	

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					
実績					
算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	
指標	

	R6	R7	R8	R9	単位
目標					
実績					
算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	穂谷川清掃工場に市民が直接持ち込まれたごみを可燃物・不燃物・資源物、リユース可能なものに分別し、リユースとリサイクルを推進した。令和6年度は、紙類6.35t、金属類19.71tの売払いを行っている。また、空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品など2751.5tを受け入れ、リサイクル(中間処理を含む)を行った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	ごみ減量と循環型社会の形成に向けて、引き続き、市民の持込みごみの分別によるリユース・リサイクル、空き缶・びん・ガラス類、小型家電、水銀使用廃製品等のリサイクル(中間処理含む)に取り組む。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　877

事務事業名称		穂谷川資源循環センター運営事務						
担当部署(R7年度機構)		部:　環境部		課:　穂谷川資源循環センター		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　R4年度(2022年度)　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市廃棄物の減量及び適正処理の促進に関する条例、労働安全衛生法、地方自治法、枚方市事務決裁規定、公害健康被害の補償等に関する法律等						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	課の運営を円滑に執行する。						
	対象者(受益者)	課の職員						
	現状・課題	課の運営を円滑に図る必要がある。						
	事業の概要	穂谷川資源循環センターの事務事業、予算・決算の執行管理、各種照会・回答、職員の出退勤、休暇等の管理・報告などの庶務事務全般と、残量入りのガスボンベ・スプレー缶、リチウムイオン電池(モバイルバッテリー)の受付、市民からの粗大ごみの持込みに係るごみ処理券の販売管理、市民からの各種問い合わせの対応等を行う。						
	年間の主な事務	・庶務事務全般(事務事業、予算・決算の執行管理、各種照会・回答、職員の出退勤の管理・報告等) ・残量入りのガスボンベ・スプレー缶、リチウムイオン電池(モバイルバッテリー)の受付 ・粗大ごみの持込みに係るごみ処理券の販売管理 ・市民からの各種問い合わせの対応等						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	3.45人	—	—	—
再任用	0.60人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.25人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳 正職員、再任用、任期付職員	29,720	—	—	—		
	内訳 会計年度任用職員	483	—	—	—		
	内訳 特別職非常勤	0	—	—	—		
	内訳 附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計	30,203	—	—	—		
	物件費計	4,284	—	—	—	4,532	94.5%
歳出計		34,487	—	—	—		
歳入	国庫支出金	0	—	—	—	0	
	府支出金	0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0	
	市債	0	—	—	—	0	
	その他	0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)		4,284	—	—	—	4,532	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①			―	―	―

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①			R6	R7	R8	R9	単位
	説明						
	指標	目標					
		実績					
		算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①			R6	R7	R8	R9	単位
	説明						
	指標	目標					
		実績					
		算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	事務事業、予算・決算の執行管理、各種照会・回答、職員の出退勤、休暇等の管理・報告などの庶務事務全般と、残量入りのガスボンベ・スプレー缶、リチウムイオン電池(モバイルバッテリー)の受付、市民からの粗大ごみの持込みに係るごみ処理券の販売管理、市民からの各種問い合わせの対応等を行った。 令和6年度実績　ガスボンベ・スプレー缶　6,334本　リチウムイオン電池(モバイルバッテリー)　680個
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	引き続き、庶務事務、残量入りのガスボンベ・スプレー缶、モバイルバッテリー(膨張したものを含む)の受付、ごみ処理券の販売管理、市民からの各種問い合わせ対応等を適切に実施していく。	R7年度方向性	**現状維持**

参考　方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	―	―	―